

2019年(令和元年)

ハタハタ情報 No.2

令和元年10月25日発行

中央水産試験場 資源管理部

Tel : 0135-23-8707 Fax:0135-23-8709

後日、インターネットからもご覧いただけます↓

マリネット北海道 : <http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/index.html>

水試調査船北洋丸によるトロール調査(留萌沖)の結果を報告します。

【調査概要】2019年10月11日～10月14日に、留萌沖の水深210～320mの5調査点でトロールを曳網し、ハタハタの漁獲試験を行いました。計70尾(0歳魚を含む)のハタハタを採集し、体長測定や年齢査定などを実施しました。

- 1マイル曳網あたりの平均採集尾数は3.9尾で、近年の中では昨年に次いで多かった。
- 年齢組成は2歳魚主体になるため、漁獲物は昨年より大型魚の割合が多くなる見込み。
- 成熟状態は近年の平均的な値であり、沿岸前浜への来遊は11月中旬か。

1. ハタハタの分布状況(図1)

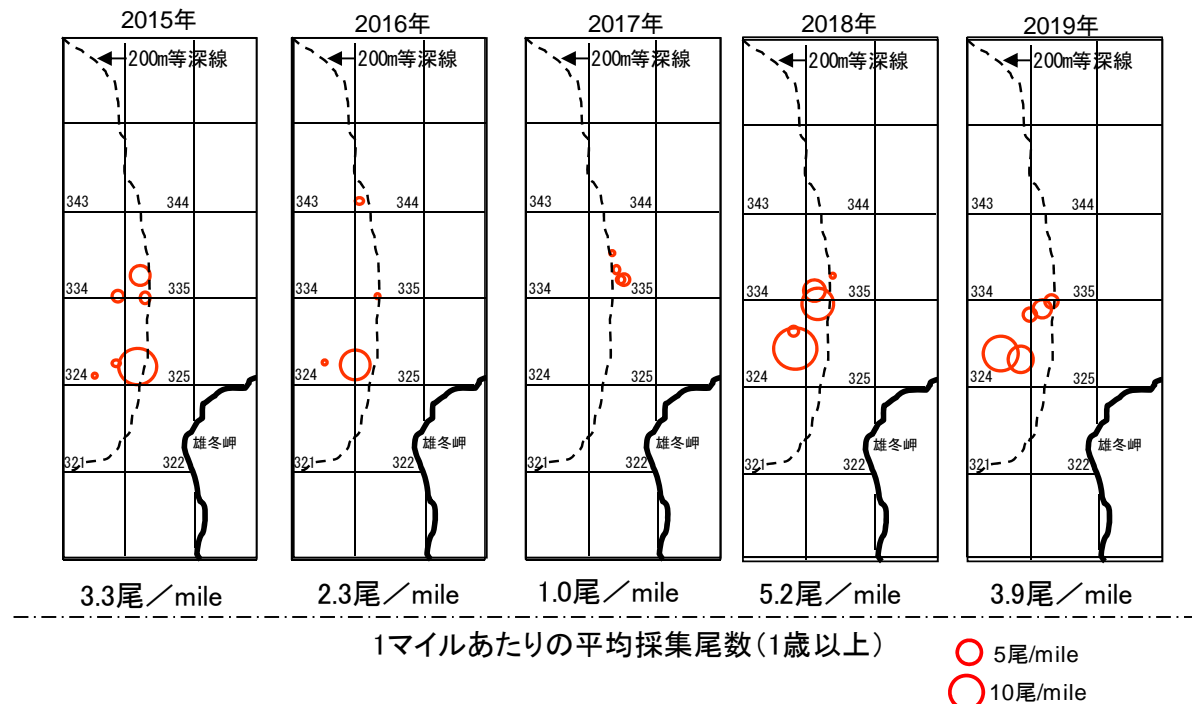


図1 10月トロール調査による採集尾数(0歳魚を除く)

今回の調査では5回のトロール曳網を行い、1歳以上の採集尾数は合計で44尾、1マイルあたりの平均採集尾数は3.9尾と、昨年同時期より少なくなりました。しかし、2歳以上の割合が多く1尾あたり平均体重が昨年より重いため、今漁期の来遊資源量は近年の中では比較的多かった昨年並みになると考えられます。

2. ハタハタの体長と年齢(図2)

今回の調査で採集されたハタハタの年齢組成(0歳魚を除く)は、1歳魚(2018年級)と3歳魚(2016年級)がそれぞれ14%、2歳魚(2017年級)が73%であり、2歳魚が主体でした。そのため、1歳魚主体であった昨年に比べ、今漁期の漁獲物は大型魚の割合が多くなると考えられます。

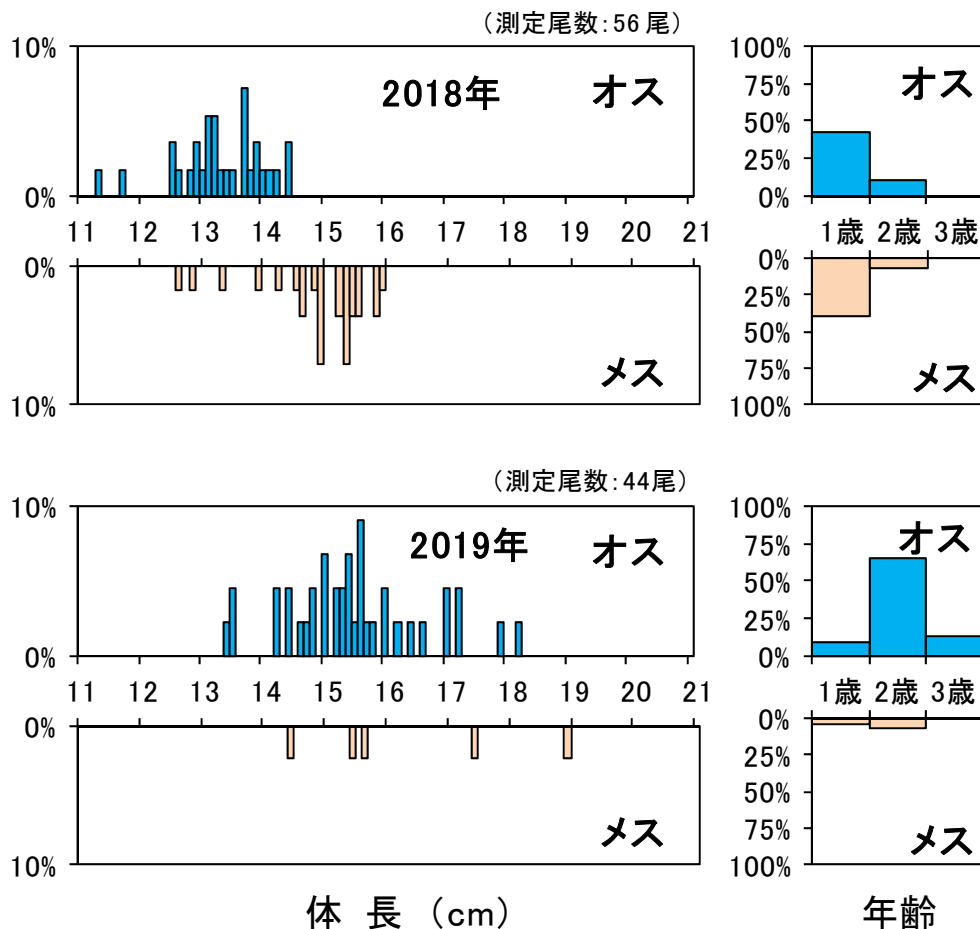


図2 今回の調査で採集されたハタハタの体長組成と年齢組成(0歳魚を除く)
 上段図: 昨年(2018年10月) 下段図: 今回の調査

3. 成熟状態(図3)

ハタハタは成熟(生殖巣の発達)が進むにつれ、南下して沿岸にて産卵することが知られています。雌の体重に占める卵巣(ブリコ)重量の割合(GSI)は産卵が近づくにつれて高くなり、沿岸に来遊する頃には40%前後となります。

今回採集された雌のGSIは1歳魚が14.3%、2歳魚が17.5%であり、2014年以

降で見ると平均的な値でした。2014～2017年の前浜での初漁日が11月11～17日、2018年は1歳主体で11月25日であったことを踏まえると、今漁期の石狩湾前浜への来遊は11月中旬が目安となり、その時期の水温や海況に応じて来遊時期が決まるのではないかと考えられます。

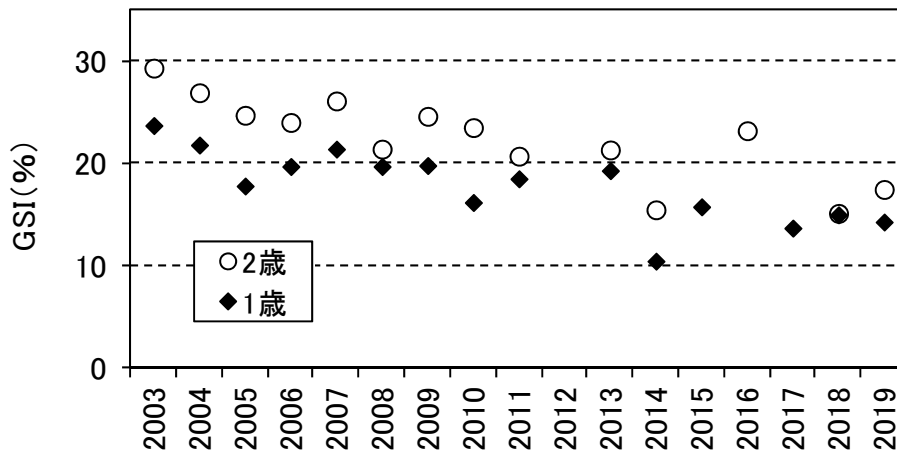


図3 毎年10月のハタハタ雌の卵巣重量指数 (GSI)
(GSI = 卵巣重量 ÷ 内臓除去体重 × 100)

4. 水温(図4)

今回の調査の中で行ったCTDによる留萌沖の表層から底層までの水温観測結果を、同時期の過去5年平均値(平年値)と併せて示しました。

2019年の水温躍層(水温が大きく変化する水深帯)は50m付近にあり、それより浅い範囲の水温は18℃台で平年より2.5℃ほど高め、それより深い範囲では平年並み～1℃前後高めであり、水深200mの水温は3.6℃(平年比1.1℃高い)でした。

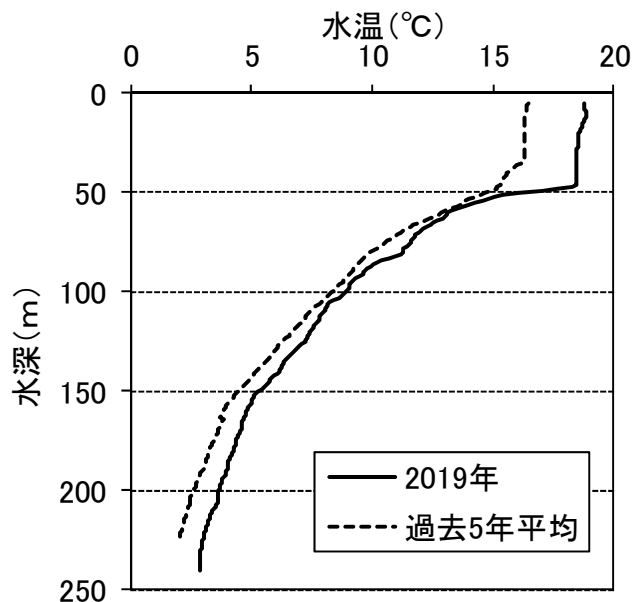


図4 留萌沖の水温分布

5. 今後の調査など

今年度の留萌沖での調査船によるトロール調査は終了です。関係漁業者の皆様、調査へのご配慮ありがとうございました。今後は、各漁業による漁獲物の標本採集調査などを実施いたしますので、重ねてご協力をお願いいたします。